

研究会報告  
- C T研究会 -



上野代表世話人による開会の挨拶  
(第3回研修会 05/08/20 盛岡日赤血液センター)

【17年度の活動内容】

発足2年目を迎える当研究会の17年度の活動は、以下の通りです

《第3回研究会》

平成17年8月20日 14:00～17:00

盛岡赤十字病院 血液センター

参加人数47名

<プログラム>

1) 技術講演

「CTこぼればなし」

東芝メディカルシステムズ㈱ 東北支社

営業推進部 CT担当課長 小林久也氏

2) 実験班活動報告

盛岡日赤病院 藤村貴順会員

3) 症例検討会

県立二戸病院、盛岡日赤病院より提供

《第4回研修会》

平成17年11月12日 14:00～17:00

盛岡日赤病院 記念講堂

参加人数55名

<プログラム>

1) 情報提供

「個人情報保護法について」

日本シェーリング 学術情報課 東北担当

長嶺雅明氏

2) 症例検討会

荻野病院、岩手医大病院、盛岡日赤より提供

3) 特別講演

「頭頸部のマルチスライスCT」

岩手医科大学 放射線医学講座 助教授

中里龍彦先生

第3回研修会はお盆過ぎの暑い時期で、子供の夏休みなど忙しい時期ではありましたが、日程的に調整がつかずやむを得ない開催となりました。しかし、参加者47名と多数の会員に足を運んでいただきました。冷房設備の整った盛岡日赤の血液センターにおいて、前記の内容で進められました。技術講演の小林氏は営業活動を通じてご存知の方も多いと思いますが、「CTこぼればなし」では軽快な話術で、64列MDCTを中心とした最新の技術と豊富な臨床例を解説していただきました。64列MDCTは県内では、岩手医大循環器センターの1台のみですが、来年は数施設での購入が噂される中、非常にタイムリーな講演であったと思います。

盛岡日赤、藤村氏による実験班報告では、盛岡地区の会員を中心として行われた基礎実験の報告で、CT検査時のmA、kV、pitch等の変化に対する画像のSD(標準偏差)の変化の調査と、設定スライス厚の実測の報告でした。自分の施設の装置で測定しておくことで例えば、mAをどの程度上げれば、SD値もどの程度改善するというように把握できるメリットがあるというもので、今



症例検討会

(第3回研修会 盛岡日赤厚谷氏による症例の解説)



症例検討会

(第4回研修会 症例の供覧に鋭い視線の参加者)



特別講演の中里助教授

(第4回研修会 05/11/12 盛岡日赤記念講堂)

回は盛岡地区を中心に測定方法の実技講習を行いました。県内全域への普及を目的としていることから、要望があれば、何処へでも馳せ参じることでした。

症例検討会では、県立二戸病院、盛岡日赤病院から、貴重な症例を提供いただきました。

第4回研修会は、やはり盛岡日赤の記念講堂において開催され、参加者55名の参加の会員が参加されています。長峰氏による情報提供は、今年2月より施行された個人情報保護法についての解説で、我々も医療人として最低限の内容は理解しておく必要があることから今回の依頼となりました。講演は広範囲かつ細かな内容を解りやすくまとめ、例えば、どのような場合に同法違反となるのかというような場面では、「開業した医師が元の勤務していた病院から患者情報を持ち出した」等、実例を随所に入れ、更にQ&A方式で、我々が日常遭遇する現場での疑問に答える形をとるなど、初めて聞く方でも十分に理解できるように工夫されたものでした。

症例検討会は、荻野病院、岩手医大病院、盛岡日赤の3施設から提供がありました。第3回の症例提供も含め提供いただいた施設に紙面を借りてお礼を申し上げます。

岩手医科大学放射線医学講座助教授、中里龍彦先生による「頭頸部のマルチスライスCT」と題した特別講演では、イギリスで発表された頭部の超選択的動注療法、内耳の画像診断、インプラント用歯科解析、副鼻腔の外科的アプローチに対するシュミレーションの4つの内容について講演さ

れました。いずれもマルチスライスCTの性能を十分に活用した画像を提示しながらのものでした。超選択的動注療法では、口腔がんに対し、栄養血管である外頸動脈の細い分枝3本を同定すると共に各血管に対する抗がん剤の投与量を算定するために一塊の腫瘍の中でそれぞれの血管が支配する割合を体積で求める作業にマルチスライスCTを有効に使用し、また耳鼻科領域の画像診断においては、マルチスライスCTによる高分解能ボリュームデータを下にVRやMPRを駆使することによって、内耳の細部にわたる画像診断を可能にするなど、マルチスライスCTの奥深さを感じるとともに、このような使用方法もあるのかと目から鱗的な驚きがありました。更にインプラント用しか解析では、インプラント挿入時のピットホールまで解説していただき、歯科医の免許も所持する先生らしい造詣の深さを感じる講演でした。

#### 【今後の活動内容計画】

今後も、基本的には講演、症例検討会などの内容で進めたいと考えております。講演には、年に一度放射線医学の医師をお願いする予定です。また、モダリティーメーカーによる最新情報の講演も考えて行く予定です。また、昨年まで実験班、臨床班と2班の世話人で活動した経緯がありますが、世話人全員でコミュニケーションを密にとる必要があることから、今後はそのよな形態を取り止め、全ての事業に対し全員の世話人で当たることを確認しています。

活動内容や研究会の内容等なるべく多くの会員

に参加いただけるよう勤めておりますが、全ての参加者の満足を得ることはできません。アイデアや意見などをお持ちの方は、世話人を通じてでもかまいませんし、直接 Mail [fmh-hosha@echna.ne.jp](mailto:fmh-hosha@echna.ne.jp) までお寄せいただければ幸いです。

#### 【今後の課題】

CT 装置の多列化は急激に進み、64 列 MDCT が岩手県でも 1 台稼動し、今後更に増える見込みです。したがって、県内ではコンベンショナルタイプから 64 列 MDCT まで非常に幅広い装置が稼動していることになり、それぞれの施設における CT の考え方は必然的に多岐に及びます。また、CT についても維持管理、臨床、被爆、画像処理、ネットワーク、医療経済など多くのジャンルがあります。そのような中で、多くの会員に共通した研修内容で、出席者の増加を促すことは難しい問題です。今後会員の意見を尊重しながら進めていかなければなりません。そのために参加者のアンケートなどをお願いするような機会があると思います。そのような場合はご協力をお願いいたします。

#### 【世話人の変更について】

この度、世話人新しくが加わることとなりました。よろしく願いいたします。

< 県技師会 CT 研究会担当理事 >

上野 秀昭	総合水沢病院
東山 行雄	国保藤沢町民病院

< 世話人 >

東 英彦	県立二戸病院
羽成 孝夫	岩手医科大学付属病院
藤村 貴順	盛岡日赤病院
駒木 俊明	せいてつ記念病院
安藤 和行	県立中央病院（新世話人）

報告 県技師会 CT 研究会担当理事 東山行雄